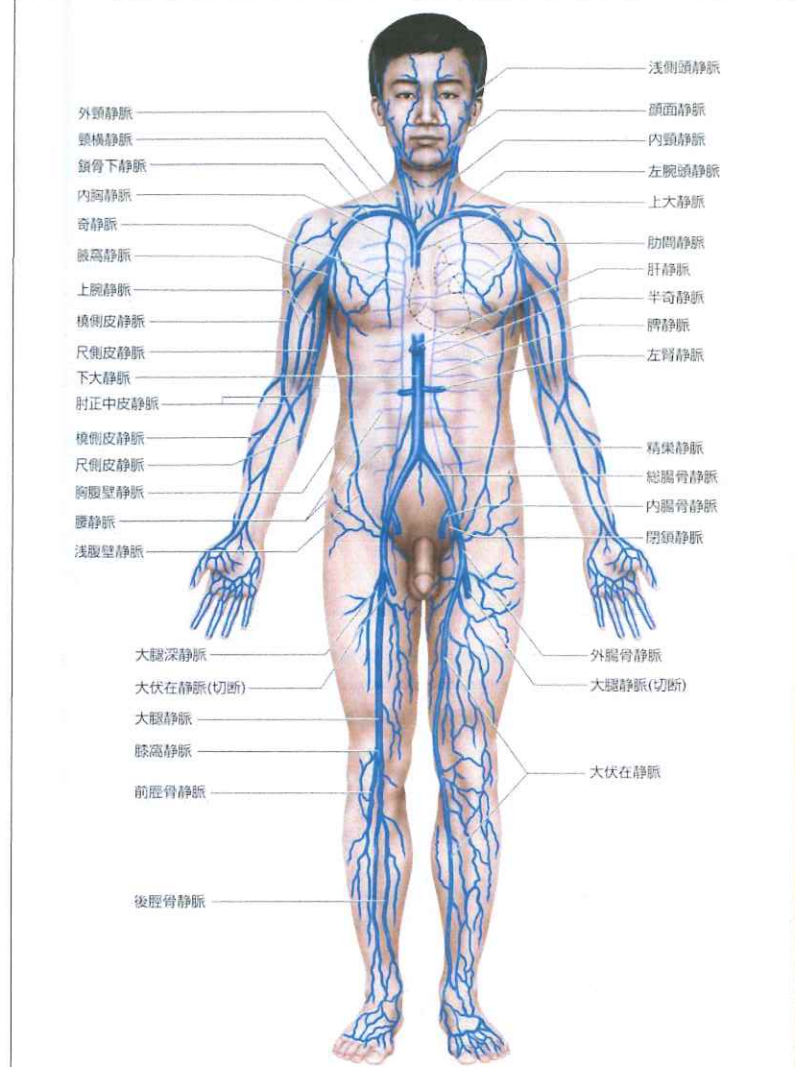


7. 末梢循環系の構造 2

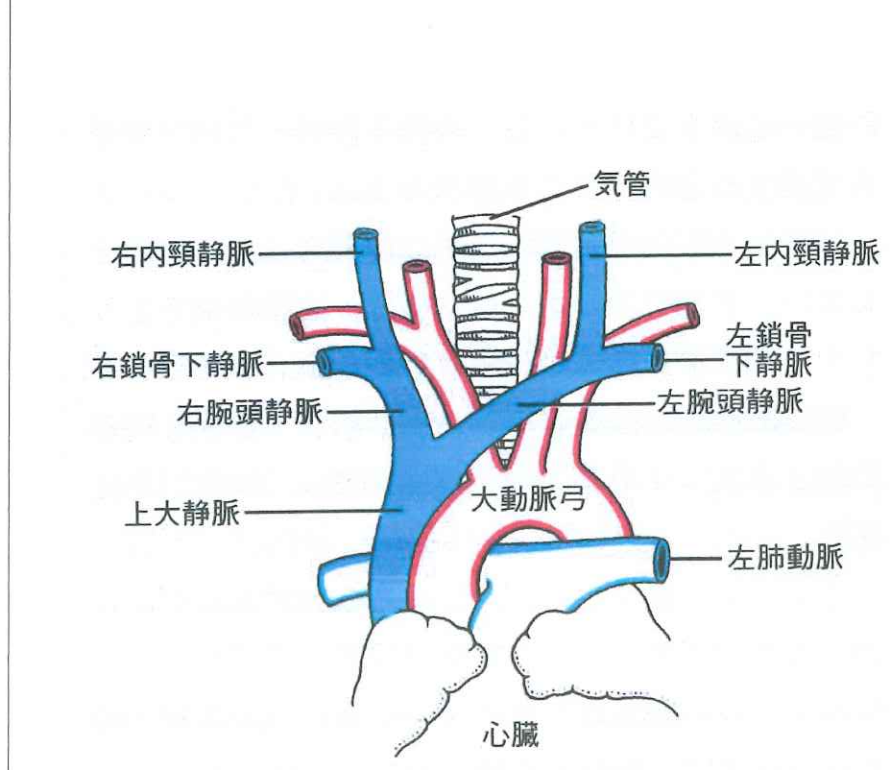
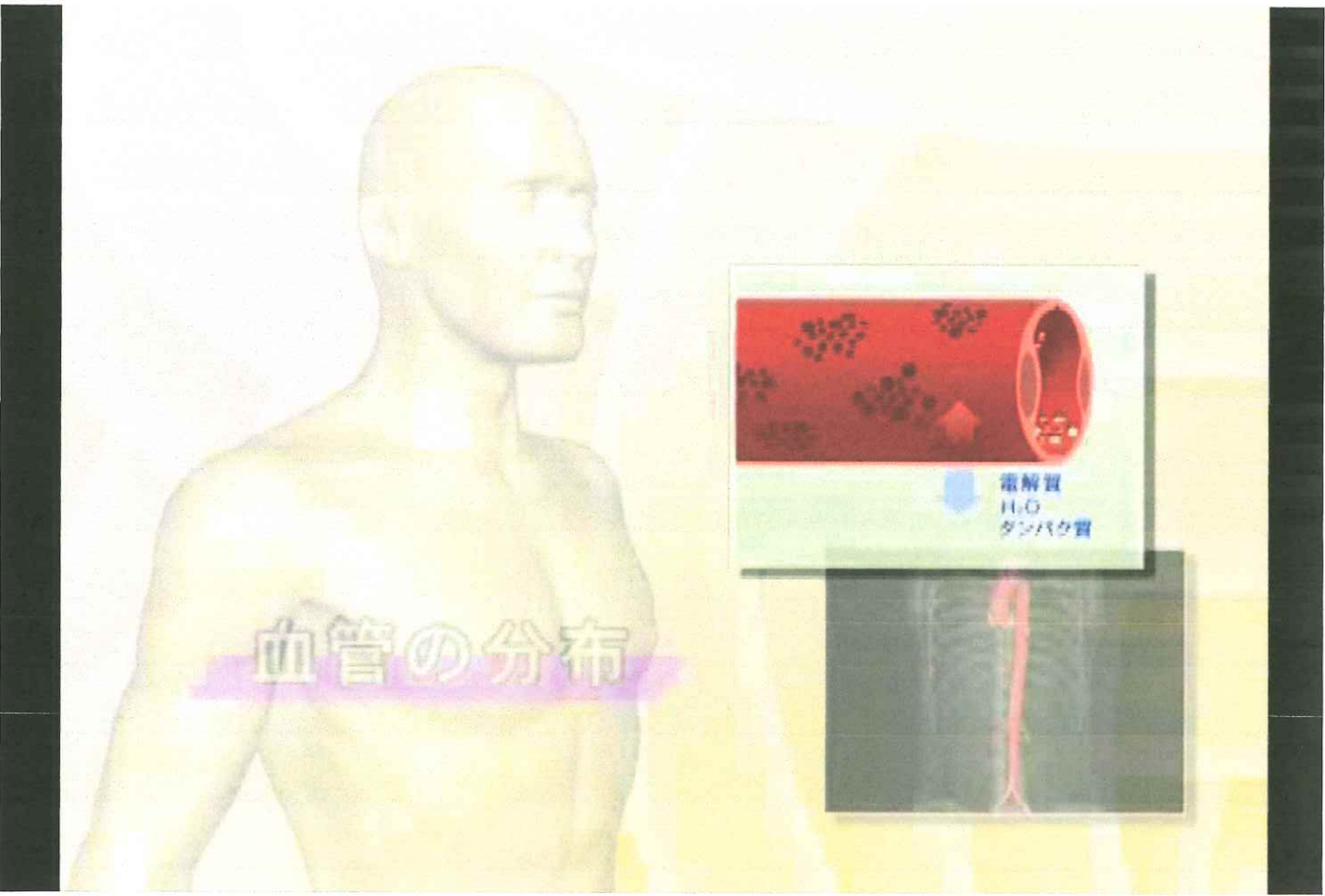
<http://ana1.net/>

ユーザー名(U): anatomy
パスワード(P): anatomy

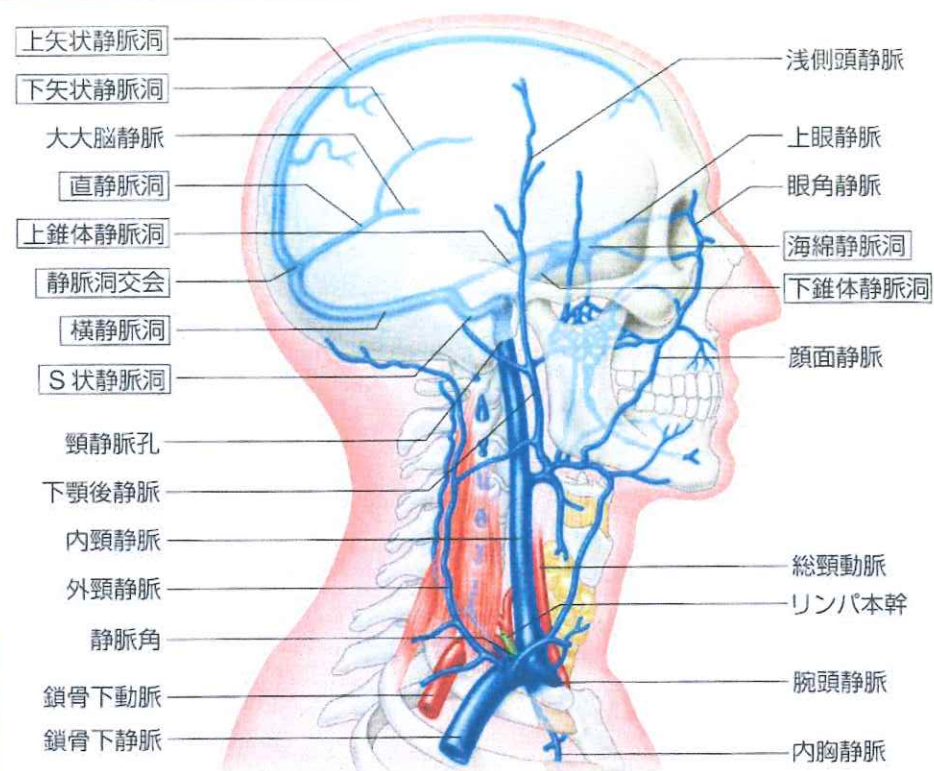


全身の静脈系(男性)
上大静脈
(じょうだいじょうみゃく)

下大静脈
(かだいじょうみゃく)



上大静脈 (じょうだいじょうみゃく) には頭部、頸部、上肢からのすべての静脈血が流入する。長さは約7cmである。上大静脈は胸骨の右縁に沿って下行し、心臓の右心房に終わる。
左右の腕頭静脈は内頸静脈と鎖骨下静脈の合流によって形成され、左右の“くびのつけね”に位置する。

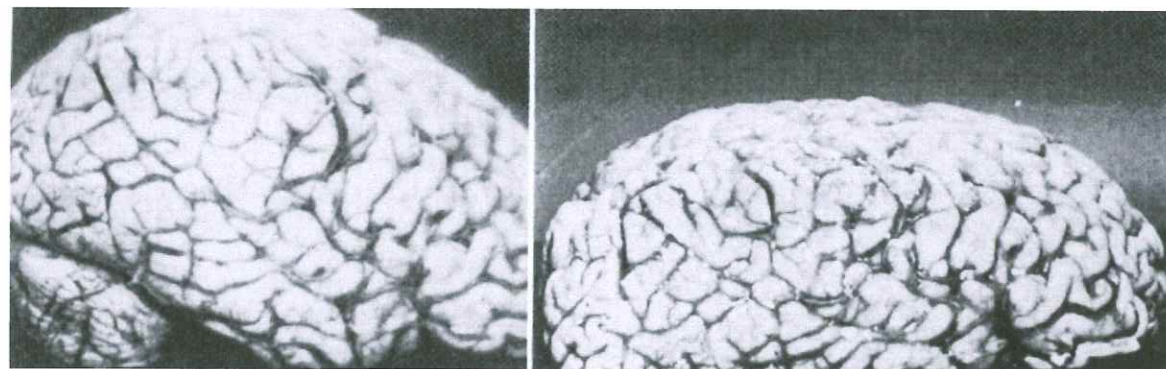
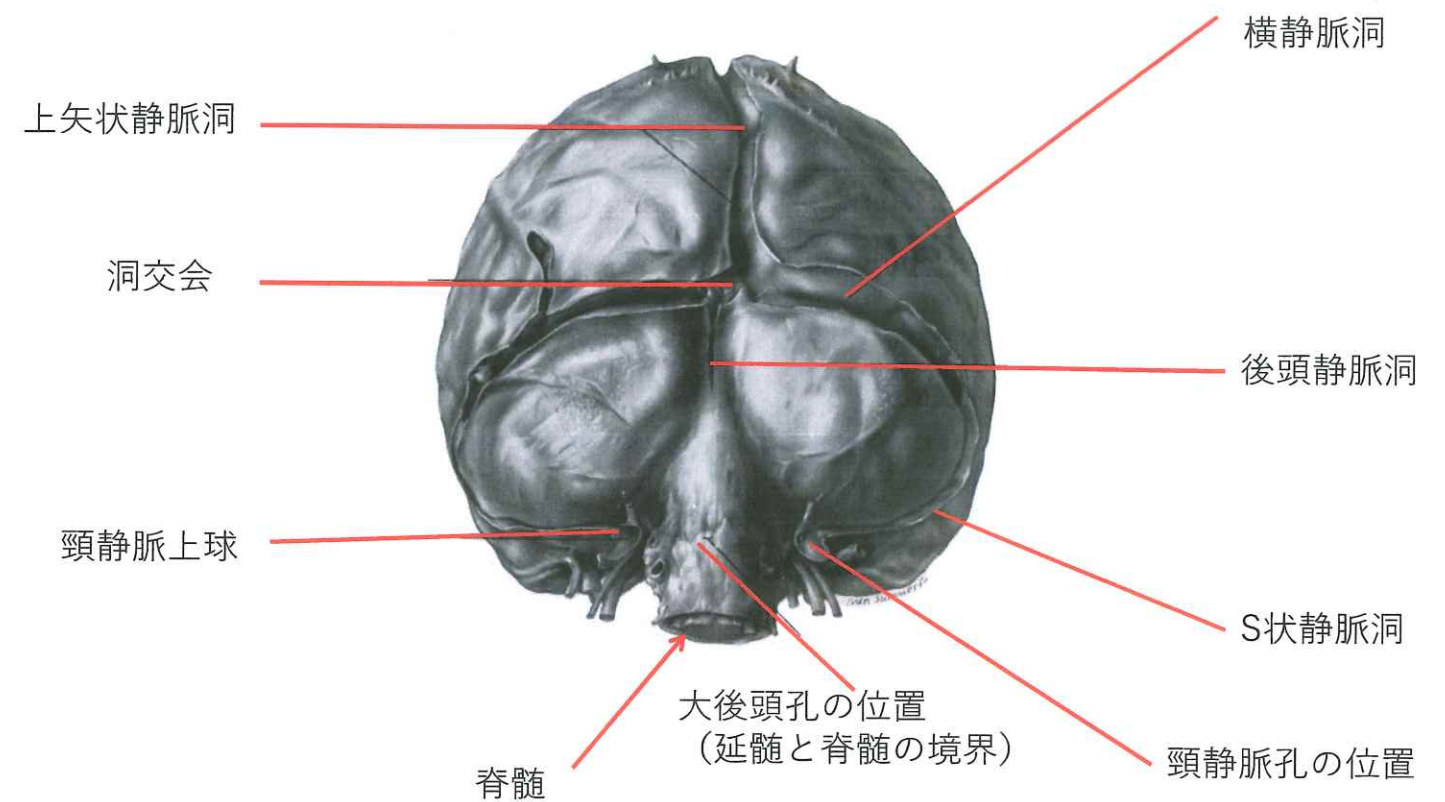


□を総称して硬膜静脈洞とよぶ。脳からの血液は硬膜静脈洞を経て内頸静脈にいたる。

右頭蓋腔を側方より見た図

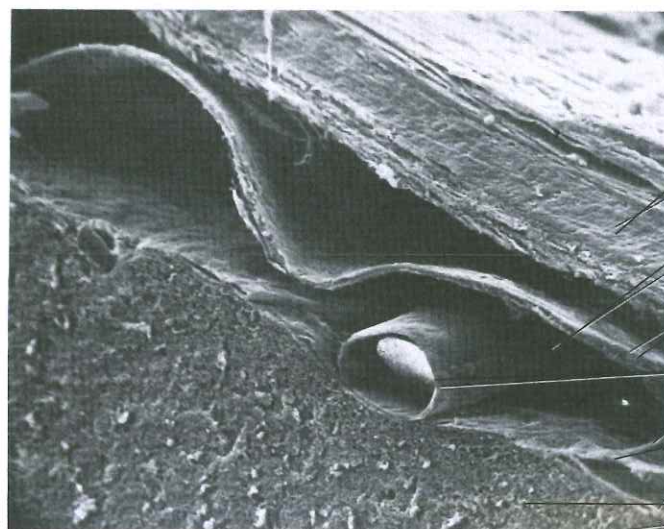
上矢状静脈洞（じょうしじょうじょうみやくどう）
 下矢状静脈洞（かしじょうじょうみやくどう）
 直静脈洞（ちよくじょうみやくどう）
 横静脈洞（おうじょうみやくどう）
 S状静脈洞（えすじょうじょうみやくどう）
 上眼静脈（じやうがんじょうみやく）
 海綿静脈洞（かいめんじょうみやくどう）
 上錐体静脈（じょうすいたいじょうみやく）
 下錐体静脈（かすいたいじょうみやく）

脳を包む髄膜と静脈洞（後方から観察）



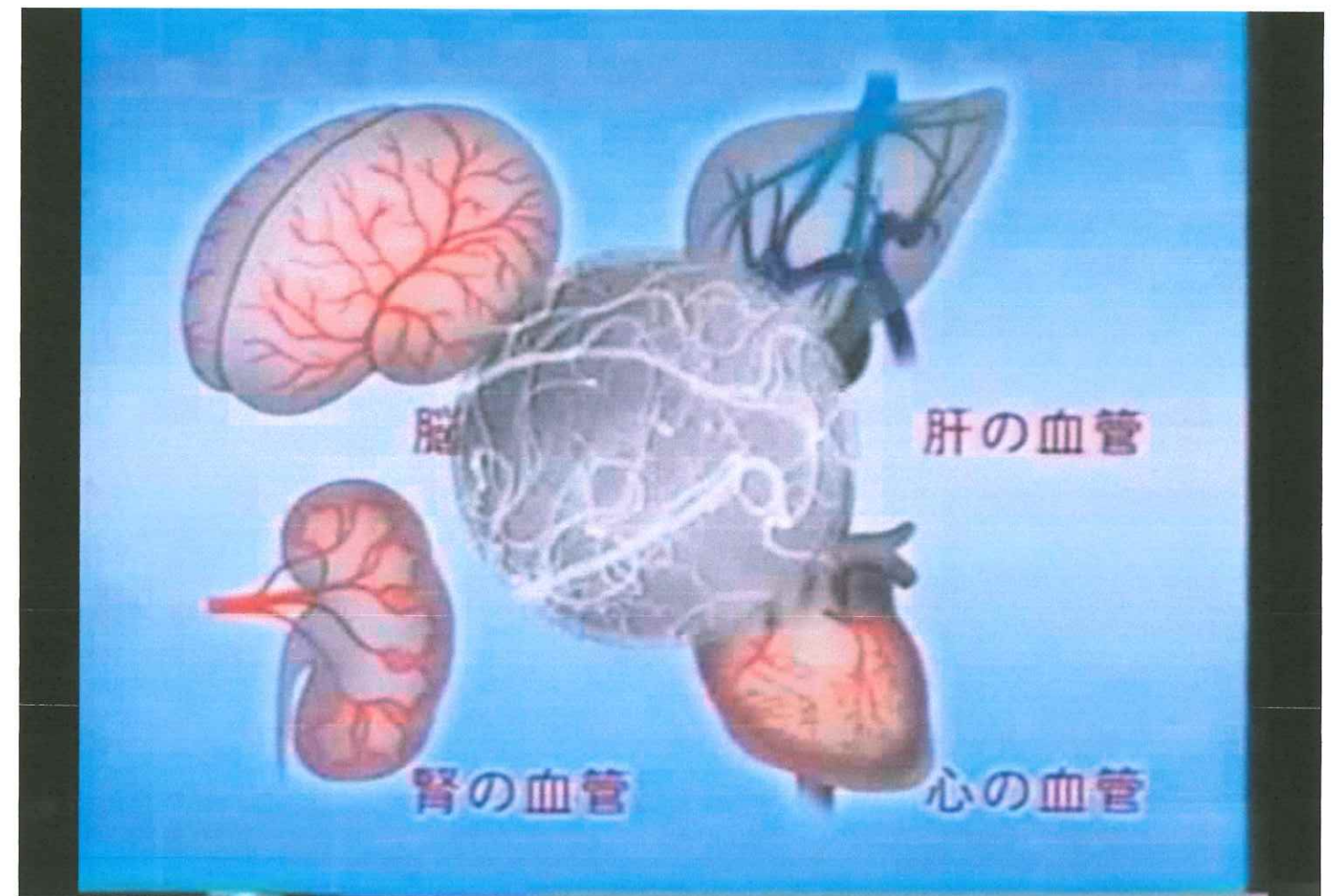
水中に沈めた脳

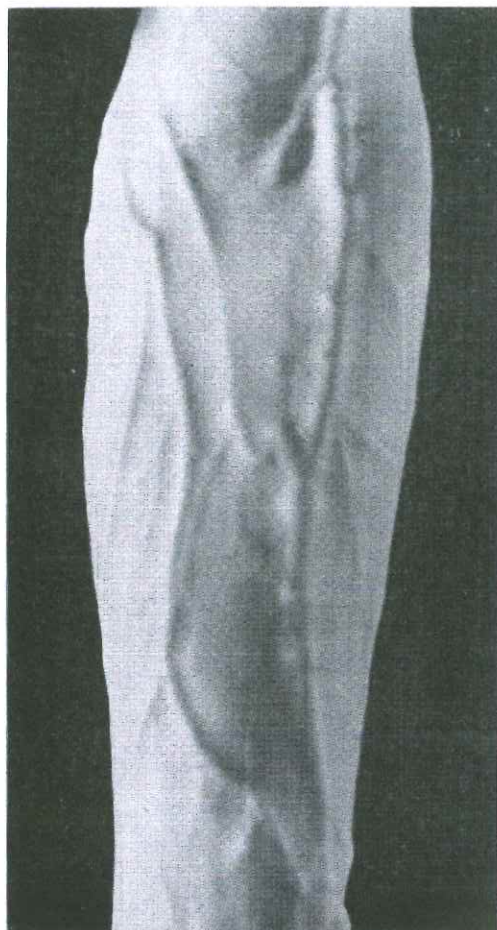
水から出した状態の脳



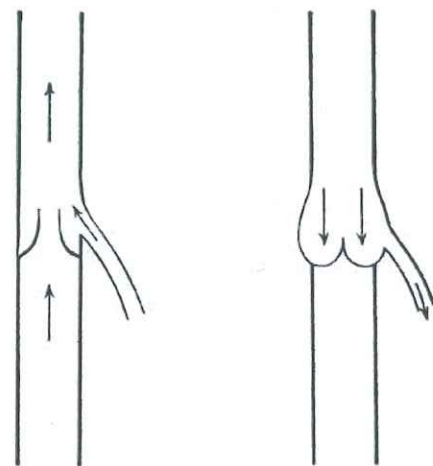
髄膜と脳の写真

硬膜
 クモ膜下腔（脳脊髄液によって満たされている）
 クモ膜
 血管
 軟膜
 脳実質部



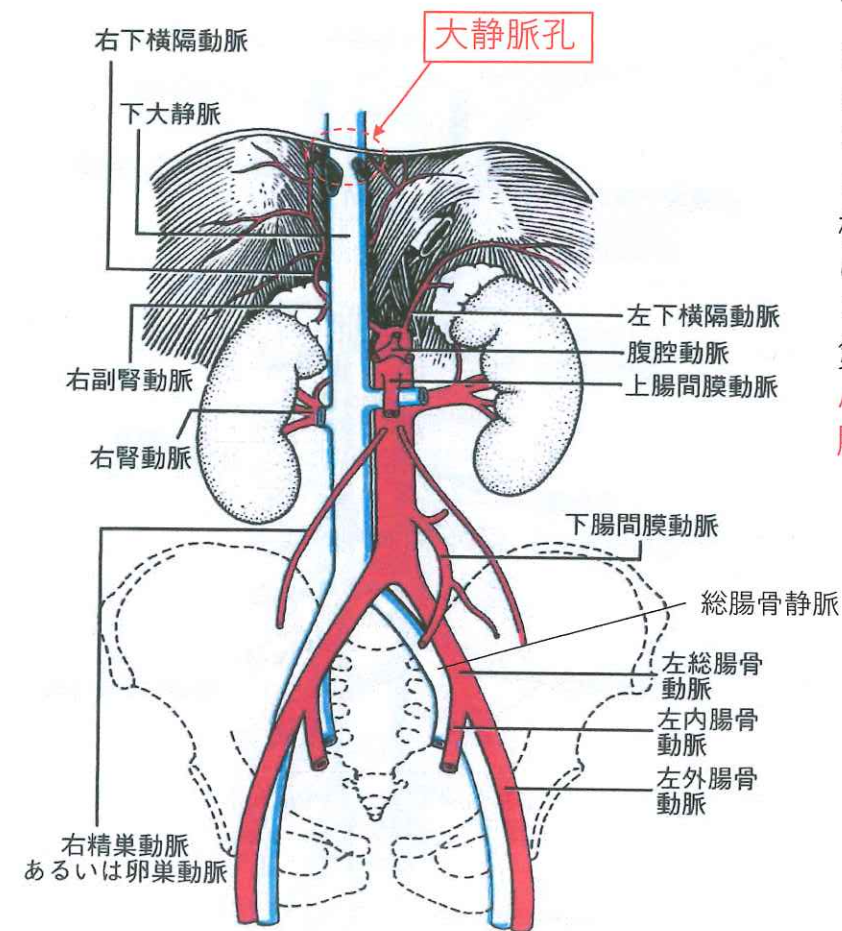


体表からの静脈弁の観察

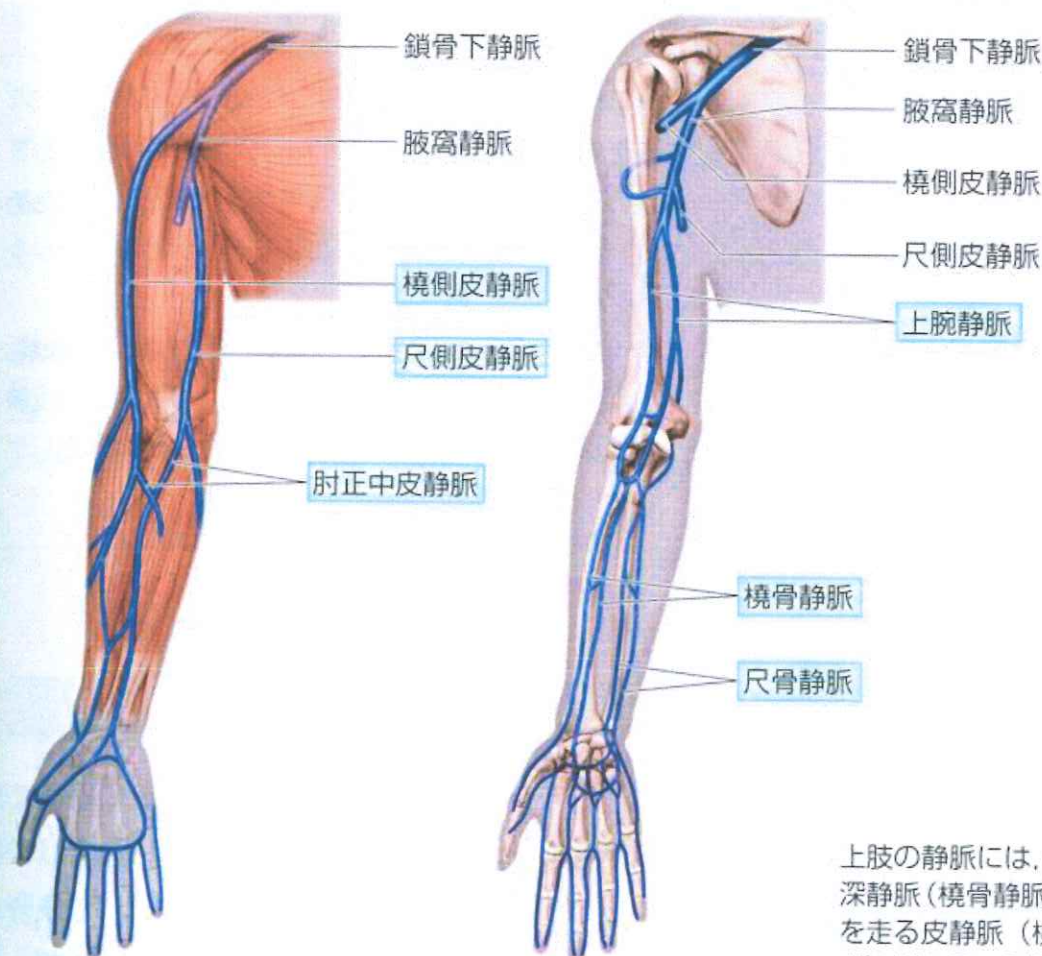


静脈弁の機構を示す模型図

(左は血液が普通に末梢から心臓に流れ帰るところ、右は血液が末梢に向かって逆流しようとするところ)



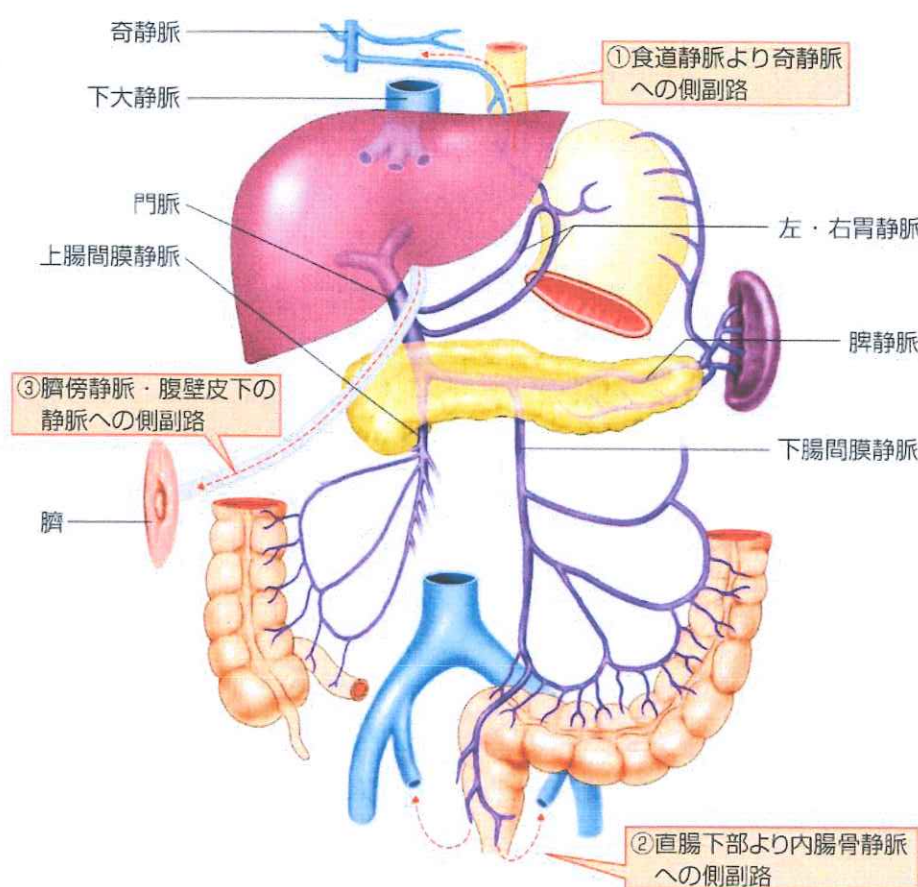
下大静脈（かだいじょうみゃく）は、第5腰椎の椎体の高さで左右の総腸骨静脈が合流して形成される。これは体内で、最大の静脈であり、横隔膜より下のすべての部分からの静脈血を右心房まで運搬している。第8胸椎の高さで、**横隔膜の腱中心にある大静脈孔を貫通して、胸腔に入り右心房に流入している。**



a. 皮静脈

b. 深静脈

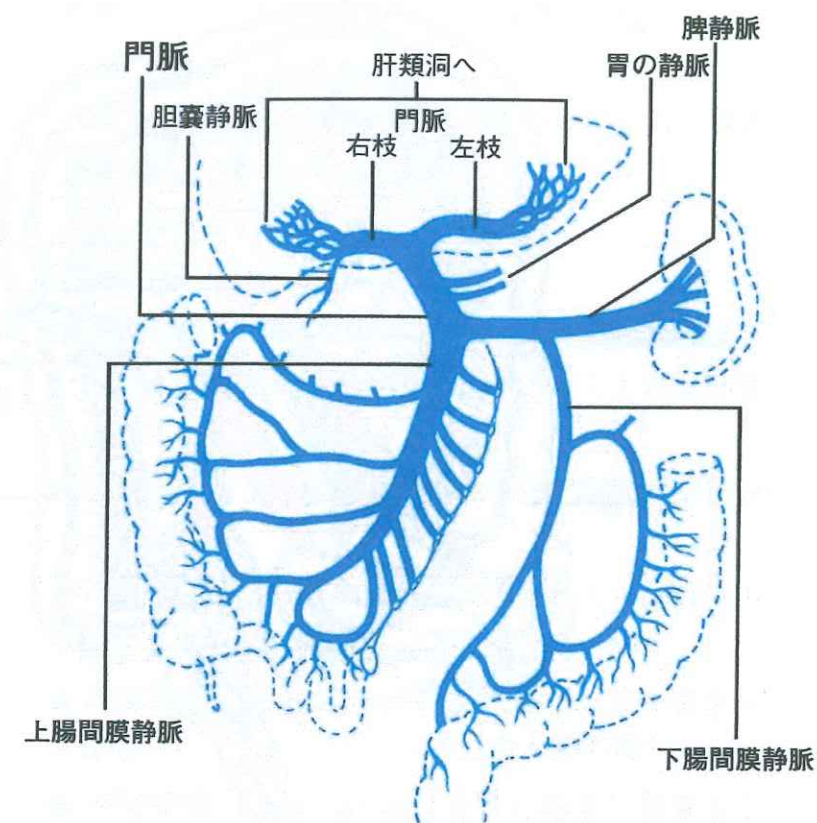
上肢の静脈には、動脈に伴行し深部を走る深静脈（橈骨静脈・尺骨静脈など）と、皮下を走る皮静脈（橈側皮静脈・尺側皮静脈など）がある。肘正中皮静脈は、採血の際によく利用される血管である。



門脈（もんみゃく）は消化管で吸収された栄養物や脾臓の血液を集めて肝臓に運ぶ重要な静脈である。肝臓内に入った門脈血は再び毛細血管となったのち、集められて肝静脈を経て下大静脈に入り心臓にもどる。

肝臓には、門脈を経由して、腹部消化管と付属器官、脾臓からのすべての血液が集まる。門脈の末梢枝は、①～③のように、数か所で大静脈の末梢枝とつながっている。

肝臓



門脈を形成する静脈：

- ・脾静脈
- ・下腸間膜静脈
- ・上腸間膜静脈
- ・胃の静脈
- ・胆嚢静脈
- ・臍傍静脈

脾静脈は脾臓・膵臓および胃の一部からの血液を運んでくる。

下腸間膜静脈は直腸・S状結腸および下行結腸からの静脈血を運び、脾静脈に合流する。

上腸間膜静脈は小腸と大腸の近位部すなわち盲腸・上行結腸および横行結腸からの静脈血を運び、脾静脈と合流して門脈を形成する。

胃の静脈は胃および食道の下端からの静脈血を集め、門脈に流入する。

胆嚢静脈は胆嚢からの静脈血を集めて門脈に流入する。

臍傍静脈は臍の周囲の静脈血を集めて門脈に流入しているが、肝硬変などで門脈の通過障害が起きると臍の周囲に放射状に静脈がはれ上がって“メドゥーサの頭”と呼ばれる状態になる。

